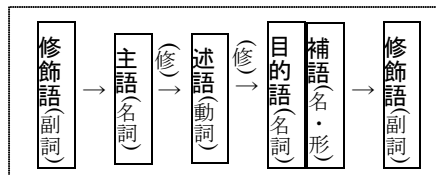


中3文法のまとめ



■中3の文法範囲

現在完了(完了)	「have+過去分詞」で「過去+今」を表す
現在完了(経験)	「have+過去分詞」で「過去～今までの経験」を表す
現在完了(継続)	「have+過去分詞」で「過去～今」を表す
受身(受動態)	「be+過去分詞」で「～れる・られる」という受身を表す
to不定詞	「to+動詞の原形」の応用的な使い方。「疑問詞+to～」, 「VO to～」
分詞	現在分詞(～ing)と過去分詞の形容詞用法。分詞の形容詞用法は3年の文法で最も重要なものの1つです。
関係代名詞	名詞を後ろから修飾するグループを作る
間接疑問文	間接疑問文では疑問詞の後ろは疑問文の順番にならない
so～that…の文	「とても～なので…」という意味になる

1 現在完了(完了・経験・継続)

「have(has) + 過去分詞」の形を現在完了と呼び、「過去+現在」を表す。「過去+現在」をさらに細かくみると「完了・経験・継続」の3つがある。

完了	I have washed my car. (私は車を洗った)
経験	I have been to Kyoto three times. (私は京都に3回行ったことがある)
継続	I have lived in Tokyo for five years. (私は5年間東京に住んでいる)

完了でよく使う表現	already(すでに), yet(疑問: もう, 否定: まだ), just(ちょうど)
経験でよく使う表現	once(一度), ~ times(～回), ever(今までに), never(一度も～ない)
継続でよく使う表現	for ~(～の間), since ~(～以来), How long ~?(どのくらいの間～)

否定文 have(has)に not をつける I haven't finished my homework.

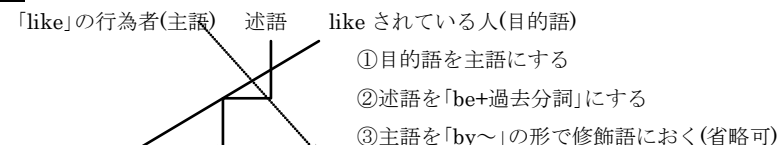
疑問文 have(has)を主語の前に出す Have you finished your homework?

—Yes, I have. / No, I haven't.

2 受身(受動態)

「される人(もの)」を主語にした文を受け身の文(受動態)と呼びます。述語の形が「be+過去分詞」の形になるのが大きなポイントです。

通常の文(能動態) Everyone likes him. (みんなは彼のことが好きだ)



受け身の文(受動態) He is liked by everyone. (彼はみんなに好かれている)

主語 be+過去分詞 「like」の行為者(by ～～によって)

Point be 動詞は主語や時により am / are / is / was / were / will be などになる

3 to不定詞(中3の範囲)

表現	例
疑問詞+to～(疑問詞の意味+～すべきか)	I don't know what to say.
want A to～(Aに～して欲しい)	I want you to come.
ask A to～(Aに～するよう頼む)	She asked me to help her.
tell A to～(Aに～するよう言う)	The teacher told him to be quiet.
too～to…(～すぎて…できない)	I am too tired to walk.

※このほか形式主語の it に注意。 It is difficult for me to speak English.

4 分詞

名詞を修飾する際、1語の場合は名詞の前、2語以上の場合は名詞の後ろに置く

現在分詞(～ing) The running girl is my sister. (その 走っている 女の子は私の姉です)
～している○○
(～していた○○)

The girl playing tennis is my sister. (その テニスをしている 女の子は私の姉です)

過去分詞(～ed) Everyone knows the repeated story. (みんながその 繰り返された 話を知っている)

I received an e-mail written in English. (私は 英語で書かれた メールを受け取った)

5 関係代名詞

■ 関係代名詞の種類

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom
物	which	whose	which
人・物	that	whose	that

このほか、what は例外的に先行詞を持たず名詞節を作る
what = (the) thing(s) which

※目的格は省略可能

- 先行詞とは関係代名詞の直前にくる名詞を指す。
- 略式(主に口語)では whom の代わりに who を使うことが多い。

※関係代名詞のグループはどんな場所にある名詞も修飾できて、原則として名詞の直後に置かれる。

People who have money should help people who don't have money.

①主格 (who / which / that)

I have a friend who speaks English. (私は英語を話す友達を持っている)

②所有格 (whose)

○whose の後ろには必ず先行詞に所属するもの(人)がきて、セットで主格か目的格になる

I have a friend whose mother is a singer. (私はお母さんが歌手の友達を持っている)

I met a girl whose name I don't know. (私は名前を知らない女の子に会った)

③目的格 (who[m] / which / that)

I have a friend who I like very much. (私はとても好きな友達がいる)

○関係代名詞 what = the thing(s) which

※名詞につく他の関係代名詞と違い名詞のグループを作る。what の前に先行詞は置けない。

What he said is wrong. (彼が言ったことは間違っている)

【基本的な語順パターン】

※whose 以外は that と交換可

人 who 動詞～ [相手など]	物 which 動詞～ [相手など]
人 whose その人のもの + 動詞～ +主語+動詞	物 whose その物のもの + 動詞～ +主語+動詞
人 whom 主語+動詞	物 which 主語+動詞

■ 関係代名詞を使って2つの文をつなぐ方法

1. 2つの文で関係する名詞と代名詞を探す	The boy likes soccer. I like <u>him</u> .
2. 代名詞を関係代名詞に変える	<u>him</u> ⇒ <u>whom</u>
3. 関係代名詞をもとの文の先頭に出す ※関係の強い語句が一緒に移動することもある	That boy likes soccer. <u>whom I like</u>
4. ③で作ったグループを先行詞の直後につける	<u>The boy whom I like</u> likes soccer.

6 間接疑問文

間接疑問文	I don't know <u>why he is angry</u> . (×I don't know why <u>is he</u> angry?)
◎間接疑問文では疑問詞の後ろが「主語+動詞～」の順になる。(助動詞を前に出さない)	
◎「疑問詞+主語+述語～」の形で作ったグループは名詞の働きをする(目的語などになる)	
◎疑問詞がグループ内の主語になる時は動詞を後ろにつける I don't know <u>who has the key</u> .	

7 so ~ that ...の文

「so ~ that...」の文は前から訳す方法と後ろから訳す方法の2通りがある。
～の部分には副詞か形容詞、...の部分にはSVを含むグループが来る。

① →

The box was so heavy that I couldn't carry it.

← ②

①その箱は重すぎて、私には運べなかった。

②その箱は私には運べないくらい重かった。

また、「too～(for A) to...」で書き換えることも可能。

The box was so heavy that I couldn't carry it.

= The box was too heavy for me to carry it.

※that節の主語が主節の主語と同じか一般の人の場合、for A は省略する

I am so tired that I can't walk.

=I am too tired to walk. (for me は不要)